

エネルギー貿易から見た日本とロシア

環日本海経済交流センター 貿易投資アドバイザー 森岡 裕

エネルギー資源を海外からの輸入に依存する日本とエネルギー資源の有力な純輸出国であるロシアは対照的な国であるが、エネルギー貿易という点で両国の利害は一致している。日本は石油の中東依存率が高く（82%）、輸入先の多様化は重要な課題である。⁽¹⁾ 他方ロシアは石油とガスの主要な輸出先が西方市場（ヨーロッパ地域）であり、輸出先の多様化を図るためには東方市場（アジア太平洋地域）の開拓が重要な課題となっている。ここから日本にとっては、中東依存率を下げる施策の1つとしてロシアが有力な選択肢となりうる。他方ロシアにとって、東方市場の開拓を図るとともに過度の中国依存を避けるためには、日本へのエネルギー資源の輸出強化は有効な施策となる。そこで本稿では、エネルギー貿易という視点から日本とロシアの状況及び両国の関係について見ていくことにする。

1. 日本の状況

周知のように石油の調達に関して、中東依存率は高い。表-1から明らかなように、サハリン・プロジェクトが本格的に稼働しておらず、またロシア東部に輸送インフラ（パイプライン）が整備されていなかった2005年時点では、輸入先の上位4ヶ国を中東諸国が占めている。これら4ヶ国からの輸入量は1.81億トンで、総輸入量の74%となっている。他方、サハリン・プロジェクトが稼働しESPO（東シベリア・太平洋パイプライン）が稼働している現在（2015年）は、ロシアが第4位の輸入相手国となり、総輸入量の8%を占めている。中東以外の有力な輸入相手国として、ロシアの存在は小さくない。

表-1. 日本の石油の主要な輸入相手国

(100万トン)

2005年		2015年	
輸入相手国	輸入量	輸入相手国	輸入量
UAE	64.8	サウジアラビア	57.8
サウジアラビア	64.1	UAE	42.0
イラン	30.5	クウェート	14.6
クウェート	22.0	ロシア	13.4
メキシコ	2.5	カタール	9.9
総輸入量	245.8	総輸入量	161.6

(出所) 日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット、「エネルギー・経済統計要覧 2008」, p. 172~173. ; IEA, Oil Information 2016, p. III-316. より作成

ガスについては、南アジア（含オーストラリア）と中東が有力な輸入相手国となっている（表-2）。だがロシアからのLNGが入ってくるようになった現在（2013年）では、ロシアが第4位の輸入相手国となり総輸入量の

9.8%を占める。ロシアのガス（LNG）は、日本の輸入先の多様化にとって大きな意味を持ち、ロシアのLNG関連のプロジェクトに協力していくことは有望な選択肢である。

表-2. 日本のガスの主要な輸入相手国

(10億m³)

2006年		2013年	
輸入相手国	輸入量	輸入相手国	輸入量
インドネシア	18.60	オーストラリア	25.72
オーストラリア	15.68	カタール	22.64
マレーシア	15.60	マレーシア	21.00
カタール	9.87	ロシア	12.01
ブルネイ	8.65	インドネシア	9.19
総輸入量	81.86	総輸入量	122.82

(出所) 日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット, 「エネルギー・経済統計要覧 2008」, p. 188~189. ; IEA, Natural Gas Information 2016, p. II-22~23. より作成

2. ロシアの状況

次にロシア側の状況を見ておきたい。表-3から明らかなように、2005年時点ではロシアの石油の輸出相手国の上位10ヶ国は全てヨーロッパ諸国である。だが、サハリン・プロジェクトとESPOが稼働している現在（2014年）では、中国（第2位）、日本（第6位）、韓国（第7位）が上位10ヶ国に入っており、これら3ヶ国への輸出量は5,200万トンとなり総輸出量の23.6%を占めている。したがって輸出先の多様化を図りたいロシアにとって、東アジア市場の重要性は増している。また中国への過度な依存を避けたいロシアにとって、日本と韓国は一層重要な輸出先となる。

表-3. ロシアの石油の主要な輸出相手国 (CIS諸国を除く)

(1000トン)

2005年		2014年	
相手国	輸出量	相手国	輸出量
オランダ	40,691	オランダ	42,704
イタリア	29,408	中国	29,978
ドイツ	27,386	イタリア	20,908
ポーランド	17,479	ポーランド	18,071
リトアニア	8,792	ドイツ	17,267
フィンランド	8,013	日本	11,851
キプロス	6,672	韓国	10,802
スロバキア	5,235	フィンランド	7,692
チェコ	5,101	ハンガリー	5,384
イギリス	4,813	スロバキア	5,318
総輸出量	252,594	総輸出量	223,438

(出所) Внешняя торговля стран Содружества Независимых Государств 2005, с. 354. ; Внешняя торговля стран Содружества Независимых Государств 2014, с. 216. ; より作成

ガスについては、2005年、2014年とも輸出先の上位10ヶ国は全てヨーロッパ諸国である（表-4）。だがこれはパイプラインによる天然ガス輸出だけで集計されているため、LNGでの輸出が入っていない。LNGについては表-5から明らかなように、全てが東方市場（アジア）向けである。その中で日本へは115億m³輸出しており、LNGでの総輸出量の79%を占める。したがって、ロシアのLNGはほぼ日本向けと言ってもよい。ここからLNG関連のプロジェクトで、日本とロシアが協力することの意味の大きさがわかる。

表-4. ロシアの天然ガスの主要な輸出相手国
(CIS諸国を除く)

(100万m³)

2005年		2014年	
相手国	輸出量	相手国	輸出量
ドイツ	32,552	ドイツ	36,431
イタリア	21,852	トルコ	27,330
トルコ	18,042	イタリア	19,872
フランス	13,229	イギリス	10,073
ハンガリー	8,990	フランス	7,095
チェコ	7,252	オランダ	3,508
ポーランド	7,032	フィンランド	3,111
オーストリア	6,829	リトアニア	2,537
スロバキア	4,588	ギリシャ	1,745
ルーマニア	4,525	オーストリア	1,302
総輸出量	207,263	総輸出量	174,261

(出所) Внешняя торговля стран Содружества Независимых Государств 2005, с. 355.; Внешняя торговля стран Содружества Независимых Государств 2014, с. 217.; より作成

表-5. ロシアのLNGの輸出相手国 (2014年)

(10億m³)

相手国	輸出量
日本	11.5
韓国	2.6
中国	0.2
台湾	0.1
タイ	0.1
総輸出量	14.5

(出所) BP Statistical Review of World Energy 2015, p.28. より作成
(<http://www.bp.com/en/global/corporate/energy-economics/statistical-review-of-world-energy.html>)

ここまでエネルギー貿易の視点から日本とロシアの状況を見てきたが、最後に1点、指摘しておきたい。

それは、ロシアのエネルギー資源を利用(輸入)することを危険視する見解についてである。戦略性の高い商品であるエネルギー資源をロシアに依存すると、ロシアによって日本がコントロールされてしまうのではないかと、「危機感、恐怖感」である。確かにこのような「恐怖感」は根強いが、妥当性があるとは言えない。仮に、日本がロシアのエネルギー資源の大口顧客(買手)となったとすると、ロシアの外貨収入の一定割合を左右できる存在になったことになる。この状況で、ロシアが契約を無視して供給停止を行えば、信用を失い、相当程度の外貨収入の獲得機会を失い、損をするのはロシアである。また、ロシアは現在東方シフト(東方市場の開拓・強化)を企図しているが、中国に過度に依存することを避けながらこの政策を実現するためには、日本と韓国へのエネルギー資源輸出を強化するほかない。言い換えれば、東方シフト政策実現の鍵を握っているのは買手である日本と韓国である。したがって、日本としては、エネルギー資源調達が多様化を実現するためのカードとしてロシアのエネルギー資源を活用すれば良いのであって、ロシアからのエネルギー資源輸入が増大することを恐れる必要はない。

(注)

(1)IEA, Oil Information 2016, p. III-316.